



## 1 『第2回 明科地域園小中高協働活動推進委員会研修会』 7月31日(金)

明科学習館において、園小中高職員研修会が行われました。目的・内容は下記の通りです。

### <目的>

- 1 明科地域園小中高の連携推進に向けて、職員の交流促進を図る。
- 2 地域探究を通じて明科の魅力を再発見し、生活科や総合的な学習の時間、探究の時間等における地域学習を充実させる。

### <内容>

「先生も」明科を探究しよう！

～明科の「見たい」「聞きたい」「行ってみたい」「やってみたい」を探究&共有しよう～



全体会を行った後、園小中高の職員で構成される7つのグループに分かれ、それぞれで探究の視点のある程度決めてから、明科地域を歩きました。



「明科に生息するウチダザリガニをつかまえよう！」「明科の豊かな自然を守る」「明科の犀川を楽しもう！」「明科ラビリンス」等、探究の視点も様々で、思いも寄らぬ発見がたくさんありました。まとめの時間も含めて2時間ほどの探索でしたが、各事業所を回る中で人との出会いもあり、お話を聞く中で、明科の歴史や文化等に触れる機会も多々ありました。



探索から戻った後、成果発表に向けて、グループごとに相談をしながらまとめをしました。タブレットの扱いに長けた先生を中心に進めていましたが、写真を効果的に使いどの様にまとめるか、そんな研修にもなったのではないのでしょうか。発表では、「明科の魅力」「園小中高の縦でつながれそうなこと」「人に出会う大切さ」等が語られました。地域に根ざし子どもたちがやりたいことを追究する上で、意義ある研修になりました。

## ＜先生方の振り返りから＞

- ・実際にどんなものがあるか話しながら歩いてみることで、これまではあまり気にかけていなかったものを発見できた。また、自分の目で見て実際に触れることで、人の良さや新たな発見を見つけることができた。園でも散歩などで出かける事ができる場所なので、子どもたちと様々な発見を楽しんだり、地域の方と交流しながら明科を知ったりしていければと思う。
- ・発表を通して、明科の魅力をたくさん知れて良かったです。大人にとっての魅力、子どもたちにとっての魅力…いろいろあると思いました。これが明科の魅力なんだ！と思って、子どもたちとどんどん突き詰めていく楽しさや難しさを、たくさん、思い描くことができました。
- ・探究のプロセスを活用し、グループで話しながら課題を設定し、見て聞いて楽しみながら学ぶことができた。園小中高の先生方との交流をしながら楽しく活動できてよかった。他のグループの発表をきき、様々な題材があって面白いなと感じた。

## 2 『明科地域学校保健委員会』 7月31日（金）



講師に、神谷哲彦先生（筑北村教育委員会教育支援室長）をお迎えし、「明科地域学校保健委員会」が開催されました。演題は『子どもの自立を願い大人ができることすべきこと～自尊感情・非認知能力・遊びの視点から～』です。園小中高職員、保護者、市教育委員会等、総勢 80 名が参加



しました。

講演の中で、『遊び』についてのお話がありました。

**「遊び」とは…**子どもが自分から「やりたい」と思って取り組む活動。楽しい・面白いという気持ち、原動力にした体験。試したり、失敗したり、工夫したりしながら学ぶ機会。友だちや大人との関わりを通して社会性を育てる場。想像力や創造力を自由に発揮できる時間 等。

**「遊び」が必要なワケ…**心と体の発達を促すため（運動能力や感覚が育つ）。考える力や問題解決力を育てるため。言葉やコミュニケーション能力を身につけるため。感情を表現したり調整したりする力を育てるため。自信や自己肯定感（→自尊感情）を高めるため 等。

**※遊びで育つ非認知能力が、自立を支える。思考力・判断力・表現力等「人生を豊かに生きる力」につながっていく。学力や生活力はその副産物という考え方もできる。そして、それを支えるのが「自尊感情」。**

園では、子どもが成長していく過程で「遊び」を大切にしています。小中学校（特に園小の接続を考える上での小低学年）でも、日々の学校生活の中で「遊び」を起点とした取り組みを考えていく必要性を感じます。神谷先生の「遊ぶ時間を増やしてください。5分でも構わないから『教える親・教師』ではなく、『一緒に楽しむ親・教師』になりませんか」の言葉が心に響きました。下記は、参加者の感想です。

- ・諦めないための「助けて」が言える環境づくり、「遊び」の大切さがとても参考になりました。日々、子どもたちとの関わりの中で大切にしていきたいと思いました。（教職員）
- ・5分間の遊びの時間…これは「愛」がいっぱいの時間だと思いました。遊びが子どもを育てる。そこに一緒にいる大人が認める褒めることの大切さを感じました。見えない部分をまず自分が感じる、感性を磨いていくことをやっていきたいと思います。（教職員）
- ・「子どもを変えようとするのではなく、大人の関わり方を見直すことが大切」というメッセージや「存在、プロセス、成果を認める」という考え方が特に印象に残りました。（保護者）